



一人一人が安心して自分のよさを発揮できる学校

武蔵野小だより



すてきな年末・年始を迎えるためにも、今後の健康管理に気をつけましょう。

令和3年12月1日発行

折り合いをつける

大きな行事が目白押しだった2学期も最後の月を迎え、2021年も残りの日が少なくなりました。12月の澄み切った空気の中で、子どもたちは、学習面や運動面のしあげに熱心に取り組んでいます。

さて、物事に夢中になると、自分の思いを優先したくなります。遊びの中でもけんかやトラブルが起こることがあります。関わった当事者は、それぞれ自分の正しさを主張しますが、それを押し通してばかりだとどうでしょうか。また、多くの人の中で1日を過ごせば、授業でも友達関係でも自分の思い通りにいかないことがいくつもあるはずです。そのようなときにどう対応していったらいいのでしょうか。

本校では、特別活動を中心に「折り合いをつける」ということを学んでいます。

武蔵野小学校の特別活動

過日の「なかよしフェスティバル」、異なる年齢の子どもたちが1つの集団となり活動しました。6年生を中心に話し合い、一人一人がよく協力し、大勢が楽しめるすばらしい行事となりました。このような取組を通して自治的に活動する力や人間関係を築く力の育成を目指しています。

他にも学級会の時間には、意見の共通点や相違点を比べながら集団として意見の一致を図ります。自分と異なる考えも含め、多くの意見を生かす方法を話し合うこともあります。このような活動を計画的に行い、「折り合いをつける」経験を6年間でいくつも重ねます。直近の調査によると、本校の子どもたちは、話し合いを通して自分たちの生活をよりよくしようとする意識が非常に高いことがわかりました。(右図)これは大変喜ばしいことです。

「折り合いをつける」ということは1つの力であり、学校のみならず家庭や地域社会、さらには子どもたちの将来にも必ず何らかの形で生かされるものと考えます。本校ではその育成に向け今後も鋭意努めてまいりますので、この機会にご家族でも「折り合い」のつけ方について話し合ってみてはいかがでしょうか。

ほめて認めて、叱って諭し、また、ほめて伸ばす



2年ぶりのなかよしフェスティバル。リーダー6年生からの話を夢中で聞く下級生は、“お店”に来たお客さんに喜んでもらうために生き生きと活動していました。

